

ユニバーサルトイレのリレーマップ作成プロジェクト

川崎 昭仁

NPO 法人ヒューマンネットながの

1. 背景と課題

本プロジェクトを実施するにあたり、長野県の観光状況と障害者の実情を知らなければならぬ。

長野県 観光部 山岳高原観光課の「観光地利用者統計調査」（表1）によると平成26年の長野県内の観光地の利用者数は延べ8,418万人であり、観光消費額は2,974億円にのぼる。平成27年においては、延べ9,331万人、観光消費額は3,302億円となっており、利用者数は913万人、割合にして10.8%、消費額は328億円、割合にして11.0%増加もしている。大きく増加した要因として、北陸新幹線が金沢まで延伸されたことと、4月～5月に善光寺御開帳が開催されたことが考えられる。しかし平成28年は、利用者数8,958万人、観光消費額は3,094億円と、2年ぶりの減少となってしまった。この減少の要因は、前年の善光寺御開帳による増加の反動および、暖冬による雪不足でのスキー客減少、ならびにシルバークウィークが前年より短くなったことなどが考えられる。それでも平成26年を上回っている。

表1：長野県の観光実数

(単位：千人、百万円)

年	延利用者数	観光消費額
平成26年	84,183	297,388
平成27年	93,314	330,184
平成28年	89,576	309,356

国土交通省 観光庁の「旅行・観光消費動向調査」（表2）では、国内延べ旅行者数6億4,108万人（平成27年比 6.0%増）、旅行消費額は20兆9,547億円（平成27年比2.7%増）と、日本全体の旅行者数が増加している。

表2：国内の旅行者数

(単位：万人/億円)

年	旅行者数	旅行消費額
平成27年	60,472	204,090
平成28年	64,108	209,547

現在、東京オリンピック・パラリンピックに向けて表2に挙げたこれらの数字を伸ばすため、各地で様々な取り組みが行われている。しかし、そこにバリアフリーや合理的配慮に対する取り組みが多くあるとは考えられない。

現在、障害者の数は、平成28年度 厚生労働省の調査「全国の障害者数の概数」（表3）によると、身体障害者は393万7千人、知的障害者は74万1千人、精神障害者は392万4千人となっている。

表3：障害者数（推計）

(単位：万人)

身体障害者	3,937
知的障害者	741
精神障害者	3,924

内閣府の「参考資料 障害者の状況（基本的統計）」より、障害者の外出にかかわる項目を表4に抜粋した。

表4：障害者施策関係予算の概要（平成28年度）

(単位：百万円)

事項	予算額
福祉用具の研究開発及び身体障害者補助犬の育成等（厚生労働省・経済産業省）	17,609
文化芸術活動、スポーツ等の振興（文部科学省・厚生労働省）	3,777
公共交通機関のバリアフリー化の推進等（厚生労働省・国土交通省）	55

公共的施設等のバリアフリー化の推進 (警察庁・法務省・国土交通省・環境省)	228
障害者に配慮したまちづくりの総合的な推進 (環境省・警察庁・国土交通省・農林水産省)	74
情報通信における情報アクセシビリティの向上 (総務省・厚生労働省)	8
行政情報のバリアフリー化(総務省)	16
障害を理由とする差別の解消の推進 (内閣府・法務省・厚生労働省)	60

内閣府が平成18年度に、関東地方に居住する障害者229名および、高齢者87名、妊娠中の方39名、乳幼児連れの方40名にそれぞれ個別の面接調査を実施した「日常生活におけるバリアフリー化の実践に関する調査研究」結果より困っている事の上位3つを抜粋したものを表5に示す。

表5：日常生活における
バリアフリー化の実践に関する調査研究

場面	困っている事
公共交通機関 (駅や鉄道)	①ホームへ行くとき ②トイレを利用するとき ③列車を乗り降りするとき
公共交通機関 (バスやバス乗り場)	①乗り降りするとき ②乗務員の対応、乗務員とコミュニケーションをとるとき ③バス停を探すとき・バス停に行くとき
街なか (歩道・道路・信号等)	①段差のある歩道を通るとき ②広い(狭い)幅の歩道を通るとき ③障害物のある歩道を通るとき
宿泊施設 (旅館・ホテル)	①トイレや浴室を利用するとき ②館内の施設や設備を利用するとき ③部屋を探したり予約するとき
商業施設 (スーパー、コンビニ、デパート)	①商品を探すとき ②トイレを利用するとき ③店内の施設や設備を利用するとき
○情報・各種製品 (電話・携帯電話・メール等)	①取扱説明書を読むとき ②端末を操作するとき ③相手の声を聞くとき

表5より3つの場面において、トイレに関する問題が挙げられていることがわかる。障害の無い人でも初めて訪れる知らない土地でトイレを探すのは容易ではない。さらに設置数の少ない多目的トイレを探すのはそれ以上に容易ではない。我々はこの容易ではないことを簡単にできる方法はないか考え、今回の事業を実施するに至った。

2. 事業内容

本プロジェクトは、第19回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業の支援を得て活動してきた「ユニバーサル観光マップアプリプロジェクト」から派生したプロジェクトである。このアプリは前述した理由から、障害者や高齢者、妊娠されている方や乳幼児連れの方などが安心して善光寺周辺を観光できる情報を提供することを目的として、タブレットまたはスマートフォン、パソコンなどの電子機器を使って段差や多目的トイレの位置、どんな合理的配慮が受けられるか等の情報が簡単に検索して得られるのが特徴である。

我々が行ってきたこの活動は平成28年度に長野市の委託事業となり「長野市ユニバーサルタウンマップ」(図1)として現在も進行中である。



図1：メインページ (<https://unip.info>)

我々はこれまでの活動を通して、このような電子機器を操作できない人たちの中にも、トイレや段差などの情報を必要とする人が多いことを知った。そこで「ユニバーサルトイレのリレーマップ」の制作に至った。

利用者が使用した多目的トイレ内に次に移動する先の多目的トイレの位置情報が掲

示してあれば、電子機器を持たない人やアプリの操作が困難である人であっても自分の目的地までの道すがらどこに多目的トイレがあるのかを知ることができ、より安心して街歩きすることが可能となる。

3. マップ制作

平成 27 年度に長野県元気づくり支援金を用いて、長野駅から善光寺までの間のどこに多目的トイレがあるのかを示した図2のようなマップを制作した。



図2：長野駅善光寺口版

図2は長野駅から善光寺までの間の多目的トイレ情報を全て示した全体マップとなっており、我々は全体マップでは表示しきれない詳細な情報を「善光寺周辺」「権堂アーケード周辺」「長野駅周辺」の3つのエリアに別けて制作し、計4種類の多目的トイレのリレーマップを完成させた。

この長野駅善光寺口版制作の経験をもとに、長野駅東口の公衆トイレをはじめ多目的トイレのある民間施設を調査し、図3のような東口版の制作を行った。また、善光寺口版と、東口版をA4サイズ両面に印刷し、持ち歩ける携帯版の制作も行った。



図3：長野駅東口版

4. 調査活動

長野県は東京と、札幌に次ぐオリンピック開催地であり、長野駅東口周辺には当時の施設が存在している。そこでは大きなイベントが頻繁に行われ、老若男女問わず訪れる人が多い。それだけにトイレ情報の需要も高く、調査カ所が多いことは予想していた。

まず、どこに多目的トイレがあるかをプロジェクトメンバーだけで下見調査を行い、およそ50カ所のを店舗や公衆トイレを訪れ、下見調査を行った。この下見調査でそれぞれの店舗にアポイントをとり、本調査の日程を組んだ。実地での本調査はプロジェクトメンバーの他にボランティアを募り、一般の方や地元学生などの協力を得て約4, 5人のグループを3つ作り、3つのルートに分かれて調査を実施した。休日である土日は飲食店などの店舗は忙しかったり、休みの所が多かったので平日に調査を行った。平日の実施にも関わらずその協力していただいたボランティアの方々には感謝している。

図4は、調査中の様子である。図5は、調査中に実際に幅や距離などを測定している様子である。



図4：調査の様子



図5：調査の様子

5. マップデザイン

マップのデザインを考えるため、東京ビックサイトで行われた国際福祉機器展を視察し、より使いやすいモノづくりを学んだ。

例えば図6のような色覚障害に対しての色使いを知り、レイアウトや、内容が情報過多にならないようデザインを工夫した。

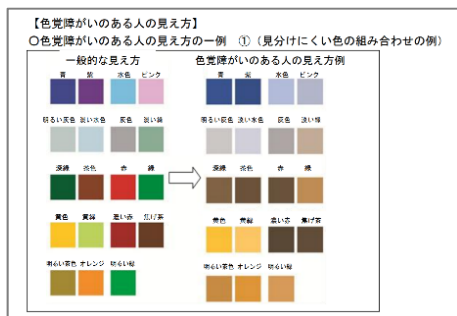


図4：色覚障がいのある人の見え方の一例

6. 掲示活動

調査したおよそ約50カ所の店舗等を回り、作成したマップを多目的トイレの中、または

入り口に掲示していただいた。図7のように車イスや子どもが見やすいよう掲示の高さをおよそ140cmの場所にするなどの工夫と配慮を行った。掲示作業においては店舗や施設側の好意的な協力が得られ、円滑に行うことができた。



図7：掲示の様子

図8は掲示終了後のプロジェクトメンバーによる記念撮影である。



図8：掲示の様子

7. 広報・啓発活動

各店舗や施設の協力、一般の方のボランティア参加など、様々な人々が携わり、その様子が図9のようにメディアで取り上げられることで、我々のこのような活動がムーブメントとなったと確信した。その成果として、図10、11のように長野県の「第5回 信州おもてなし大賞 奨励賞」を受賞することができた。

この活動がユニバーサルデザインの啓発や障害の理解促進になっていることの手ご

たえを感じている。



図9：新聞に掲載



図10：授賞式の様子



図11：テレビの取材

8. まとめ

今後も誰もが安心して外出できる環境づくりの一端を担える活動を考えている。

具体的には、長野市内の観光地を中心に、これまでの活動を拡大する予定である、さらには、長野市外の他の市町村にも本取組みが広がるような広報活動を展開する予定である。

参考文献

- 【1】観光地利用者統計調査／長野県
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/riyousya.html>
- 【2】旅行・観光消費動向調査 | 統計情報 | 観光庁
http://www.mlit.go.jp/kankocho/news02_000312.html
- 【3】参考資料 障害者の状況（基本統計より） | 平成28年版障害者白書（全体版） - 内閣府
http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h28hakusho/zenbun/siryu_02.html
- 【4】平成18年度バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進普及方策に関する調査研究報告書
http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/tyosa_kenkyu/h19/
- 【5】色覚障がいのある人に配慮した色使いのガイドライン
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/14768/00000000/guide1.pdf>